

# 第二次「朝日町子ども読書活動推進計画」

令和4年3月

朝日町教育委員会

## 目 次

第1章 「第二次推進計画」の策定にあたり	1
第2章 基本の方針	2
第3章 推進のための具体的な取組み	
1 家庭における読書活動の推進	4
2 地域における読書活動の推進	5
(1) 図書館	5
(2) 教育センター・児童館・放課後児童クラブ・ 保健センター・子育て支援センター	7
3 学校等における読書活動の推進	9
(1) 保育園	9
(2) 学校（小学校・中学校）	11
4 ふるさと（郷土・富山）文学の振興	13
5 子どもの読書活動についての啓発	14

## 第1章 「第二次推進計画」の策定にあたり

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（子どもの読書活動の推進に関する法律第2条）であり、社会全体でその推進を図っていくことは極めて重要です。

国においては、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、平成14年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を定めました。そして、平成20年、平成25年、平成30年とおおむね5年ごとに、これまでの成果と課題を踏まえた改訂版を策定しています。

富山県においては、平成15年に「富山県子ども読書活動推進計画」を策定し、平成21年、平成26年、平成31年に、これまでの成果や課題、諸情勢の変化等を踏まえ、見直しを行っています。

朝日町においても、町の子どもを取り巻く現状や課題、読書活動推進のために考えられる取組等を検討し、平成29年に「朝日町子ども読書活動推進計画」（以下「推進計画」という。）を策定し、当町の子どもたちが、たくさんの本に触れ、親しむ機会をつくり、楽しく読書ができる環境を整えていくために、町全体で取り組みを進めてきました。

その結果、図書館の児童図書は総冊数や蔵書に対する割合が増加しています。また図書館の児童図書を置く拠点が増え、子どもを取り巻く読書環境の充実に寄与しました。

しかし、依然として、小学生、中学生、高校生と年齢が進むにつれて不読率が高い傾向にあり、子どもの読書活動をより一層推進していく取組が必要とされています。

そこで、平成31年に策定した推進計画を、これまでの取組の成果や課題、諸情勢の変化を踏まえ見直し、令和4年からおおむね5年間の策定しました。

## 第2章 基本的方針

この推進計画は、次の基本方針のもと、子どもの読書活動の推進に取り組みます。

### 1. 子どもの自主的な読書活動の推進

子どもは読書を通して、読解力や想像力、思考力、表現力等の生きていくための基礎力を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。また、書籍や新聞、図鑑などを読み深めることを通して、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、さらなる知的好奇心や真理を求める態度が培われます。このため、子どもが自ら読書に親しみ、進んで読書習慣を身につけていけるよう、子どもの興味・関心を尊重しながら自主的な読書活動を推進することが大切です。

また、読書は、子どもが自ら考え、自ら行動し、主体的に社会の形成に参画していくために必要な知識や教養を身に付ける重要なきっかけとなります。特に、社会が急激に変化し、複雑化していく中で、個々人が読書活動などを通じて、生涯にわたって絶えず自発的に学ぼうとする習慣を身につけていくことはとても大切です。

### 2. 家庭、地域、学校を通じた社会全体での取組の推進

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、家庭、地域、学校を通じた社会全体での取組が必要です。子どもが読書に親しむ機会の充実に向け、それぞれが担うべき役割を果たすことはもちろん、関係機関等が緊密に連携し、相互に協力を図りつつ、取組を推進していくことが求められます。

### 3. 子どもの読書活動を支える環境の整備

子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高め、進んで読書を行う態度を養い、生涯にわたる読書習慣を身に付けるように努めることが重要です。このため、発達段階に応じて、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作り、その読書活動を広げ、読書体験を深めるような機会を提供するとともに、そのための環境作りに努めることが大切です。あわせて、子どもが興味を持つような本等を子どもの手の届く場所に整えることが重要です。

#### 4. 子どもの読書活動に関する意義の普及

子どもは、大人から物語や民話などを聞いたり、読書する大人の姿を見たりするなどして、読書意欲を高めていきます。このように、子どもが自主的な読書態度や読書習慣を身につけていく上で、特に、保護者、教員、保育士など、子どもに身近な大人が読書活動に理解と関心を持つことが大切です。このため、子どもを取り巻く大人を含めた社会全体で読書活動を推進する気運を一層高めるために、子どもの読書活動の意義や重要性について、理解を広め、関心を高める必要があります。

### 第3章 推進のための具体的な取組み

#### 1 家庭における読書活動の推進

子どもが初めて本に触れる機会というのは、家庭内であることが多いと思います。子どもにとって、身近な大人に本を読んで聞かせてもらえることは、とても楽しく幸せな時間です。家庭でのこうした読み聞かせの時間を多く持つことで、幸せの記憶を蓄積していき、たくさんの疑似体験をすることで、生きていく上での考え方の多様性や生き抜く知恵や強さを身につけていけると考えます。そうした積み重ねにより、本は楽しい、面白い、役に立つということを自然と理解し、自主的に本を読むという行為につなげていけるのではないかと考えます。また、周りの大人が読書に親しみ、楽しむ姿を見せることも重要です。

##### 【現状と課題】

今日、インターネット等の情報メディアの発達・普及、共働き家庭の増加や塾・習い事に関わる時間の増加等の子どもの生活環境の変化により、家庭における読書活動が少なくなるとともに、読書を通じての親子のふれあいが難しくなっています。

読書習慣の形成に向けては、引き続き保護者や保育園、学校、図書館との連携により、家庭での読書活動を推進していくことが重要となります。

##### 【取組】

- ・読書の楽しさや大切さについて保護者の理解が深まるよう、図書館のホームページやSNS等を通じ、情報発信・啓発を行います。
- ・読み聞かせ会といった、子どもと本に関する行事等の情報を広報や図書館のホームページ、SNS等を通じて保護者にお知らせします。
- ・年代に応じたおすすめの本を紹介したリーフレットやブックリスト等を作成・配布します。

##### 【成果指標と目標】

成果指標	基準値 [令和2年度]	中間目標値 [令和5年度]	目標値 [令和7年度]	備考
パンフレット等 配布回数	1回	2回	3回	

## 2 地域における読書活動の推進

子どもの読書活動を推進するためには、子どもにとって身近な場所に本があるという環境を作ることが大切だと考えます。子どもが学校・保育園等以外で様々な本と出合える場所として、図書館・児童館・放課後児童クラブ・保健センター・子育て支援センターが挙げられ、中でも図書館は地域における読書活動の中心的役割を担うことが期待されます。また、子どもやその親が集まることの多い、児童館・放課後児童クラブ・保健センター・子育て支援センターも、読書活動推進の一翼を担う施設として大いに期待されます。

### (1) 図書館

#### 【現状と課題】

平成26年11月に、新しい図書館がオープンしました。また、平成29年度に読書通帳システムを導入しました。このシステムは、銀行の通帳を模した図書館専用の通帳である【読書通帳】に、図書館で借りた本のタイトル、日付、本の値段を、図書館の1階に設置してある【読書通帳機】で印字できるものです。読書の履歴が見える形にすることで、達成感が得られるとともに、「もっと読みたい」という意欲を促進し、利用につながると考えられます。

児童向けの行事として、毎月、ボランティア団体と協働で絵本の読み聞かせ会を行っています。また、季節に応じた特集コーナーを設けたり、年中行事にあわせた飾りつけを行うなど、子どもが利用したくなる楽しい図書館になるように工夫をしています。

令和3年3月末現在、蔵書冊数は約12万4千冊あり、そのうち児童図書は約2万7千冊を占め、その割合は21.7%です。これは全国平均を大きく上回る値です。しかしながら、児童図書の貸出冊数は年々減少傾向にあります。これは子どもたちを取り巻くインターネットなどのメディア環境の変化に起因する読書活動の減少のほか、資料が古く、新しく魅力的な資料に乏しい点などが考えられます。

子どもたちの図書館利用を促進するためには、子どもたちの知的好奇心を刺激し、心を豊かにする図書の充実と発信が必要です。またそれらを活用し、図書館を子どもの読書活動推進の拠点とし、児童サービスやサポート体制を構築していくことが重要と考えます。

### 【取組】

- ・子どもの読書や調べ学習等に対応できるように、図書・絵本・紙芝居等の収集・提供に一層努めます。
- ・子どもたちや子どもの読書にかかわる人たちへの資料提供や読書相談に丁寧に対応し、積極的に読書活動を支援していきます。
- ・子どもたちの興味関心に合わせ、読み聞かせ会や本の展示、アニメ映写会などの行事を定期的に行き、子どもが本と親しむ機会の提供に努めます。
- ・図書館職員の出前おはなし会や大型絵本等の貸出など、各施設と連携を図りながら読書活動をサポートしていきます。
- ・障害のある子どもや日本語を母国語としない子どもにも読書環境を整備し、豊かな読書体験の支援に努めます。
- ・選書や読み聞かせの知識・技術等の情報を職員間で共有し、県内外の研修会等に参加することによって、各職員のスキルをより高めるように努めます。
- ・図書館のホームページや SNS、各種報道機関からの発信に努めます。

### 【成果指標と目標】

成果指標	基準値 [令和 2 年度]	中間目標値 [令和 5 年度]	目標値 [令和 7 年度]	備考
児童図書蔵書冊数	27,229 冊	29,000 冊	30,500 冊	
児童図書貸出冊数	18,270 冊	20,000 冊	22,000 冊	

**【参考1】**

令和2年度朝日町図書館年代別登録者人数〈朝日町在住の15歳未満〉

年代	0～6	7～9	10～12	13～15	合計
人数	83	141	173	203	600

**【参考2】**

朝日町の年齢（各歳）別人口〈15歳未満〉（令和2年10月1日現在）

年齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	合計
人数	34	42	62	63	48	52	54	62	55	63	60	70	71	80	80	896

出典：『令和2年 富山県の人口』（富山県経営管理部統計調査課 編集発行）

(2) 教育センター・児童館・放課後児童クラブ・保健センター・子育て支援センター

**【現状と課題】**

教育センターにおいては、朝日町適応指導教室用として、20冊ほどの図書が置かれています。

児童館においては約760冊、放課後児童クラブにおいては400冊ほどの児童図書が置かれ、自由に読めるようになっています。また、図書館から団体貸出された図書が20～30冊ほど配置され、利用されています。

保健センターにおいては、4・10か月児検診時に保育士による絵本の読み聞かせを、3歳児検診時に母子保健推進員による紙芝居の上演を行っています。また、約100冊の絵本が置かれ、待ち時間等に利用できるようになっています。

子育て支援センターにおいては、320～370冊ほどの絵本が置かれ、保育士が状況に応じて読み聞かせを行っています。また絵本の貸出も行っています。育児講座では絵本の読み聞かせを企画し、親子の読み聞かせのきっかけとなっています。

今後も読書活動に関し各機関と連携し、子どもが本に触れるきっかけづくりや読書に親しむ環境の整備や取組を推進していくことが重要と考えます。

**【取組】**

・図書館の団体貸出による図書の貸出を行うことで、各施設の図書の充実を図り、子どもの身近にいつでも本がある環境を整えます。

・読み聞かせ等の行事の際、必要に応じて図書館職員を派遣するなどの各施設へのサポート体制を整えます。

・検診の際、保護者向けに乳幼児期からの読書体験の重要性について伝えるリーフレットを配布することで、読み聞かせの習慣化を目指します。

【成果指標と目標】

成果指標	基準値 [令和 2 年度]	中間目標値 [令和 5 年度]	目標値 [令和 7 年度]	備考
各施設への団体 貸出冊数	1,832 冊	2,000 冊	2,000 冊	R 2 貸出先： 児童館、児童ク ラブ
職員派遣回数	3 回	5 回	7 回	R 2 派遣先： 児童クラブ 3 回

### 3 学校等における読書活動の推進

乳幼児期には、言葉を獲得し様々な体験を通じて言葉やイメージを豊かにしながら、絵本や物語の世界が楽しむようになります。またこの時期から絵本の楽しさを知ることは、やがて子どもたちが自ら本を手に取り、楽しむことへと繋がります。そのため、この期間は読書が楽しいものであることを子どもに伝えるためのものと考えます。保育園においては、子どもの手の届くところにいつも本があり、いつでも楽しめるようにし、保育士による読み聞かせの時間を多く持つことで、いろんな本に親しむことができるように、環境を整えることが大切です。また、保護者に対しても、読み聞かせ等の大切さや意義を広く普及することが望まれます。

学童期は、自分で読むことの楽しさや、本からさまざまな知識や思考力を得て、読書が自分の生き方や社会との関わり方を支えてくれることを知る期間だと考えます。学校においては、朝の読書活動の推進による読書時間の確保、また各教科における学習の際に図書を活用することによる学校図書館の利用の促進、また、知りたいことを調べるためのコツを学ぶなど、子どもの読書習慣を形成していく上で、大きな役割を担うことが期待されます。

#### (1) 保育園

##### 【現状と課題】

各保育園においては、その規模に応じて、約400～1,500冊の絵本が、各保育室・エントランス等、子どもたちの手の届くところに置かれています。すべての保育園等で保育士による読み聞かせが毎日行われ、月に一度、絵本の貸出が行われています。また、ボランティア団体による読み聞かせ等の行事が年に数回行われているところもあります。

今後も更に絵本に親しめる環境の充実を図るとともに、家庭への働きかけを推進していきます。

##### 【取組】

- ・図書館の団体貸出による図書の貸出や、行事への図書館職員の派遣等の体制を整えます。

- ・図書館と連携し、おすすめの本を紹介したパンフレットやブックリストを作成し配布することで、子どもと絵本を楽しむ機会を持っていただけるよう、保護者へ働きかけます。

【成果指標と目標】

成果指標	基準値 [令和 2 年度]	中間目標値 [令和 5 年度]	目標値 [令和 7 年度]	備考
保育園への団体 貸出数	175 冊	210 冊	240 冊	
職員派遣回数	—	1 回	3 回	

(2) 学校（小学校・中学校）

【現状と課題】

学校図書館は、文部科学省が平成5年3月に定めた「学校図書館図書標準」によって、整備すべき蔵書冊数が決められています。朝日町においては、すべての小中学校で標準冊数に達しています。

朝日町の町立学校の蔵書数（令和3年4月1日現在）

	学級数	蔵書冊数	学校図書館図書標準蔵書冊数
あさひ野小学校	8	6,221	6,040
さみさと小学校	15	9,858	9,160
朝日中学校	10	11,821	9,600

※ 学校図書館図書標準

・小学校

学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3～6	$3,000+520 \times (\text{学級数}-2)$
7～12	$5,080+480 \times (\text{学級数}-6)$
13～18	$7,960+400 \times (\text{学級数}-12)$
19～30	$10,360+200 \times (\text{学級数}-18)$
31～	$12,760+120 \times (\text{学級数}-30)$

・中学校

学級数	蔵書冊数
1～2	4,800
3～6	$4,800+640 \times (\text{学級数}-2)$
7～12	$7,360+560 \times (\text{学級数}-6)$
13～18	$10,720+480 \times (\text{学級数}-12)$
19～30	$13,600+320 \times (\text{学級数}-18)$
31～	$17,440+160 \times (\text{学級数}-30)$

小学校では週2回、中学校では読書週間期間中、10分間の朝の読書時間を確保しています。また、ボランティア団体及び図書館職員による読み聞かせを定期的に行っています。

各小学校はまつくら文庫から、中学校はYAコーナーからそれぞれ25冊の団体貸出を行っています。

子どもたちが図書を手にしやすいように学校司書によって学校図書館の図書の配置換えやわかりやすい表示を行っています。また子どもたちの興味を引くような企画展示を行い、利用の増加を図っています。

義務教育の目標の一つである「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」を満たすうえでも、

学校での読書活動時間の確保、子どもたちにとって魅力的な資料や教職員が授業に活用できる資料の充実が課題と考えられます。

#### 【取組】

- ・学校図書館が、子どもたちにとって使いやすく、図書に親しみやすい場所となれるよう、おすすめ図書コーナーの設置や配架の工夫等、さらなる改善を行います。また、子どもたちが知りたいこと、興味のあるものを教員と連携し的確に把握しながら、蔵書の充実を図ります。
- ・各授業でも学校図書館や学校司書を積極的に活用できる体制を整えます。
- ・学校と図書館の連携をすすめ、情報を共有しながら、調べ学習の支援や子どもの読書活動の推進、一体的な資料の充実に努めます。
- ・読書の大切さや楽しさを保護者の方にも理解していただくために、パンフレットやブックリスト等を作成し、配布します。
- ・中学校で取り組んでいる「14歳の挑戦」を積極的に受け入れることで、受け入れた生徒から情報を収集したり、逆に生徒から学校へ図書館の情報を発信したりすることで、図書館をアピールしていきます。
- ・全校一斉朝読書や読み聞かせ会等の回数を増やしていくことで、読書を身近に感じてもらえるように努めます。
- ・各学校の図書委員会の活性化を図り、活動の支援を行いながら、学校図書館の活用を促します。

#### 【成果指標と目標】

成果指標	基準値 [令和2年度]	中間目標値 [令和5年度]	目標値 [令和7年度]	備考
読み聞かせ教室 (小学校)	123回	130回	140回	学校行事や集会等により中止の場合有

#### 4 ふるさと（郷土・富山）文学の振興

図書館では、世代を問わずより多くの方々が気軽にふるさと文学に親しむ環境づくりを進めています。先人の喜び、悲しみ、悩み、感動などを伝えるふるさとの文学に接することは、子どもたちに、郷土の歴史や文化を知るきっかけとなり、ふるさとの良さを継承・発展させていくためにも大切だと考えます。

##### 【現状と課題】

図書館では、富山県ゆかりの作家や富山県が舞台となった作品を収集・保存しています。特に朝日町関係の作品については“朝日町コーナー”で紹介・展示を行っています。また、朝日町出身の絵本作家・井口文秀コーナーや朝日町ゆかりの画家・竹久夢二コーナーを設置し、ふるさと文学や郷土の文化に親しむ機会を創出しています。

各種イベントにおいて、ボランティア団体が朝日町の民話や宮崎太郎の大型紙芝居の上演を行うことで、郷土の歴史や文化を子どもたちに広く知ってもらえるよう努めています。

朝日町型保小中連携教育におけるふるさと教育の推進を見据え、幼少期からふるさと文学に親しめるような環境づくりが重要と考えます。

##### 【取組】

- ・さらなる郷土ゆかりの作品の網羅的収集に努めます。
- ・ふるさとの民話や地域の歴史・文化、ふるさと文学を集めた特集を行います。
- ・子どもたちが郷土の作品に触れるきっかけとして、富山県教育委員会から配置されている、富山ゆかりの書籍を集めた「ふるさと文学巡回文庫」を各学校にて巡回展示を行います。

##### 【成果指標と目標】

成果指標	基準値 [令和 2 年度]	中間目標値 [令和 5 年度]	目標値 [令和 7 年度]	備考
ふるさと巡回文庫の展示回数	—	1 回	3 回	

## 5 子どもの読書活動についての啓発

子どもの読書活動推進のためには、家庭・地域・学校等がそれぞれの役割を果たすとともに、住民一人一人が、地域の子どもたちをみんなで育てていくという考えを持ち、積極的にかかわっていただくことが重要と考えます。

### 【現状と課題】

ボランティア団体が、各小学校や幼児園等で、読み聞かせ等の活動を行っています。スキルアップ等については、各個人に委ねられている状況です。

子どもの読書活動に関する行事の開催・周知については、保育園や学校のほかショッピングセンター等にポスター掲示を依頼するほか、HP や SNS 等を利用して行っています。

社会全体が子どもの読書活動推進を「子どもを育てる社会の課題」として捉えられるよう、積極的な読書に取り組むための広報活動、情報提供が必要と考えます。

### 【取組】

- ・各施設で活躍されているボランティア団体に対して、図書の貸出等の支援を行います。

- ・子どもの読書活動の推進にかかわっていただける方を対象にした、講習会等を企画し、ボランティアの育成・支援事業を行うことを検討します。

- ・広報やケーブルテレビ、SNS 等を活用し、図書の紹介や読み聞かせ会等の活動案内を充実に努めます。

- ・「国際子どもの本の日」(4月2日)、「子ども読書の日」(4月23日)、「こどもの読書週間」(4月23日～5月12日)、「読書週間」(10月27日～11月9日)など様々な機会をとらえ、積極的に読書の啓発を行います。

【成果指標と目標】

成果指標	基準値 [令和 2 年度]	中間目標値 [令和 5 年度]	目標値 [令和 7 年度]	備考
ケーブルテレビ の図書紹介回数	—	2 回	4 回	
各種読書の日関 連企画数	—	1 回	2 回	

## 第二次「朝日町子ども読書活動推進計画」

発行年月	令和4年3月
編集・発行	朝日町教育委員会 〒939-0793 富山県下新川郡朝日町道下 1133 TEL (0765) 83-1100 FAX (0765) 83-1109